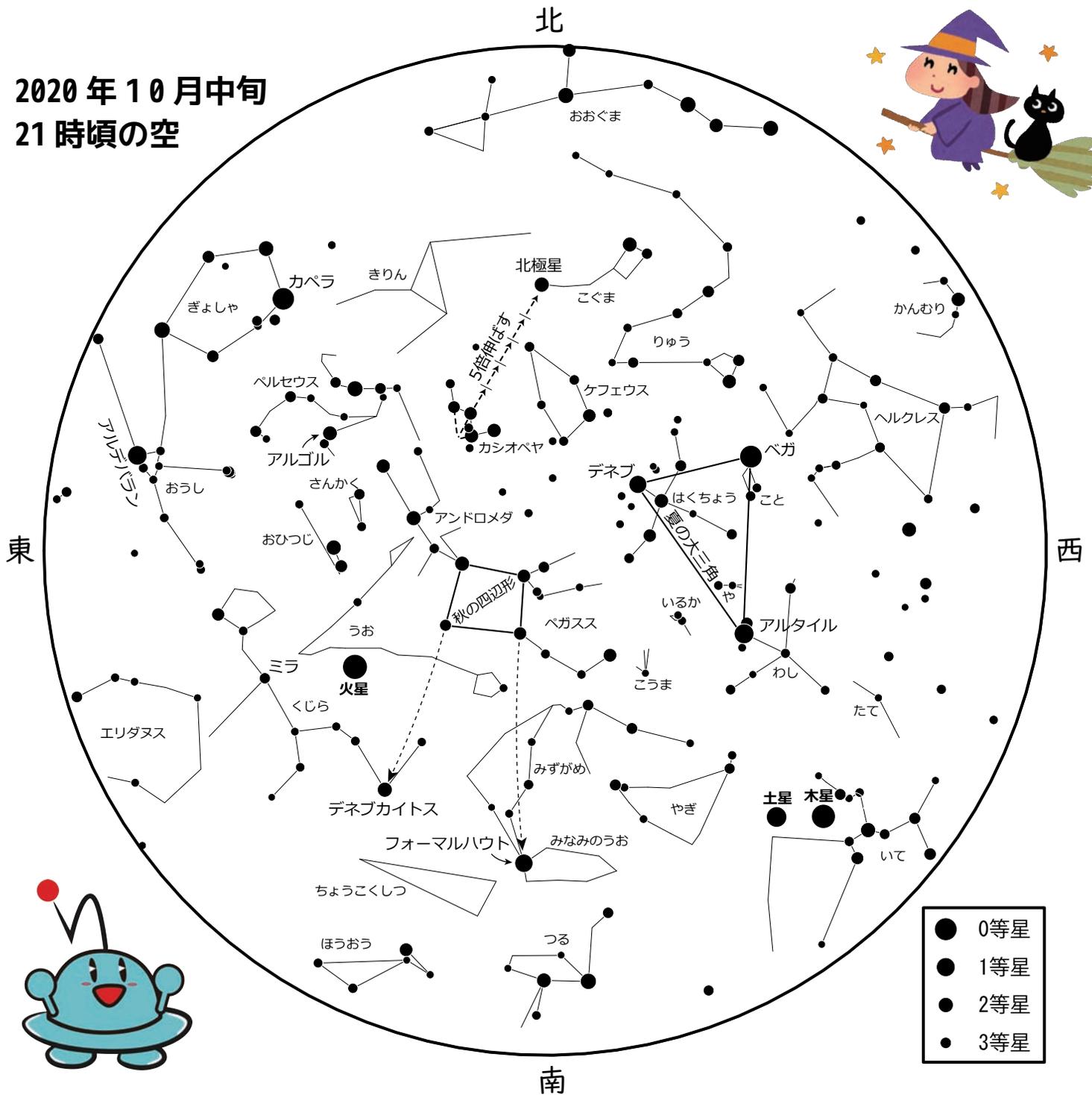


# 10月の星空案内

2020年10月中旬  
21時頃の空



10月になりましたが、西の空にはまだ夏の大三角が見えています。南の空には、ペガスス座の胴体にあたる秋の四辺形が高く昇り、秋の深まりを感じさせます。ペガスス座の北側にはアルファベットのMもしくはWの形をしたカシオペヤ座があります。カシオペヤ座の両端の線を伸ばして交わった点と真ん中の星を線で結び5倍伸ばすと、北極星が見つかります。木星と土星は西に傾きましたが、南東の空には火星が赤く輝いています。2020年は火星が地球に準大接近する年で、10月6日(火)に最接近するため、10月は非常に明るい火星を見ることができます。さらに、火星の東側には、くじら座の赤い変光星ミラがあり(暗い時は約9等)、10月頃に明るさのピークを迎えると予想されています(約3~4等)。この機会にぜひ、2つの赤い星を探してみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 19時~, 20時~, 21時~】  
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

# 10月の月の満ち欠けと惑星について



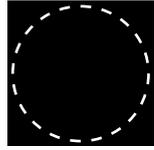
満月

2日・31日



下弦

10日



新月

17日



上弦

23日

## 10月の天体観望会で月が見える日時は？

-  10/3(土)・・・21時の回がオススメ  
※20時の回では最後に観察できるかも。
-  10/24(土)・・・全ての回で観察可能
-  10/31(土)・・・全ての回で観察可能

水星：10月中は高度がとても低いため、観察は難しい。【約0.1等】

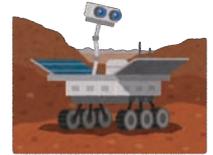
金星：夜明け前、東の空で見える（明けの明星）。【約-4.0等】

火星：宵の東の空で見え始め、その後、一晩中見える。6日に地球へ最接近。【約-2.6等→約-2.3等】

木星：宵の南から南西の空で見える。【約-2.2等】

土星：宵の南から南西の空で見える。【約0.5等】

※火星の等級は、上旬頃～下旬頃にかけての明るさ。それ以外の惑星は、中旬頃の明るさとなる。



## 注目の天文現象など

### 【火星準大接近 ～ 観察の大チャンス到来！ ～】

10月は阿南市科学センターの観望会で火星観察がオススメ!火星が地球に準大接近するため、普段よりも大きな火星を見ることができます。接近に伴って火星の見かけの大きさが次第に大きくなり、8月と9月の火星を比べると、9月の火星の方がより地球に接近しているため、大きくなっています(図1)。その後、さらに接近して大きくなり、地球に最接近する10月6日(火)に最大となります。大きくなると火星の地形が見えやすくなり、観察のチャンスです。

まず、火星の赤い色は、表面にある岩石や砂に含まれる鉄分がサビて赤サビのようになっているためです。黒っぽい模様は、玄武岩を主成分とする岩盤の部分です。黒っぽい模様で最も大きくわかりやすいのが、大シルチスです。なお、火星は自転しているため、時間が経つと火星の表面の様子が変化していきます(火星の自転周期は約24時間37分)。火星の左下に見える白い部分は極冠といい、地球でいうところの極地(北極・南極)にあたります。地球の極地が水の氷に覆われているのに対し、火星の極冠は水の氷と二酸化炭素の氷(ドライアイス)でできています。また、極冠は火星の季節によって大きさが変わります。

阿南市科学センターでは、四国最大の113cm反射望遠鏡で10月6日(火)に火星観望会を行います。さらに、毎週土曜日には定期観望会も行っています。火星は10月6日(火)の最接近後2週間においても、見かけのサイズは3～4%しか変わりませんので、10月はぜひ、科学センターの観望会に参加して火星の地形を観察してみましょう!

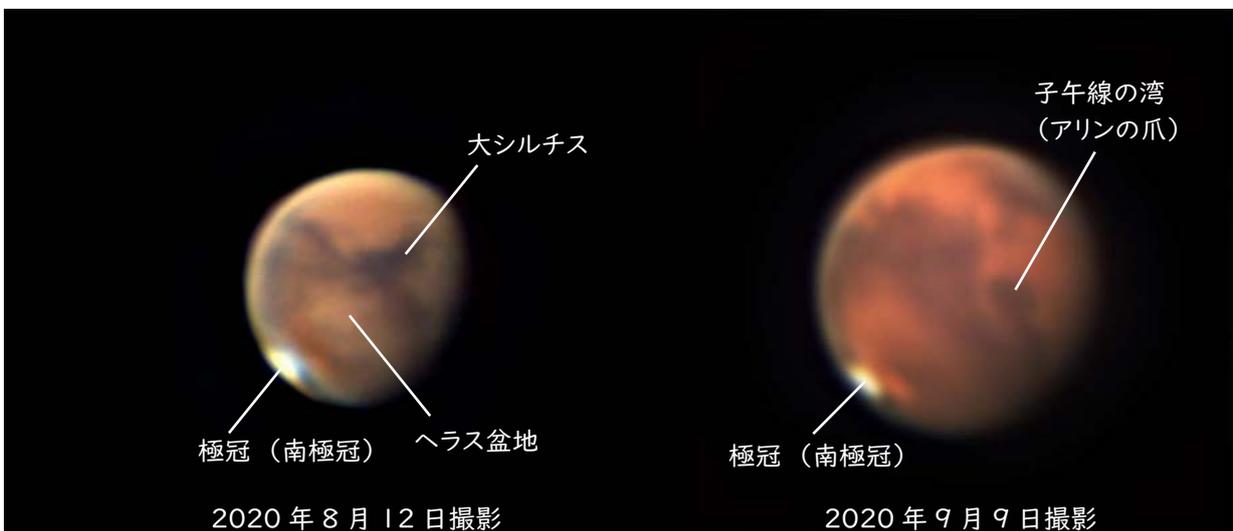


図1：火星の大きさと同様の変化